

3. サクラマスモニタリング調査

内水面水産振興部 富樫宥哉

【目 的】

サクラマスは本県海面漁業及び内水面漁業における重要魚種の一つであり、遊漁の対象としても人気が高い。しかし、種苗放流を中心とした増殖努力が続けられているものの、漁獲量は低迷している。河川内での再生産状況の悪化が原因の一つとして考えられるため（真山，1993）、産卵期における採捕数のモニタリングを行うとともに、主要2水系における釣獲数の調査を実施した。なお、2017年より継続していた産卵床数調査は、水産資源調査・評価推進委託事業の項目を参照いただきたい。

【方 法】

1. 採捕数調査

サクラマスの産卵期におけるそ上の状況を確認するためにサケのウライ、アユのヤナにおけるサクラマスの採捕数を調査した。調査はウライ、ヤナで採捕されたサクラマスを親魚として利用する、公益財団法人山形県水産振興協会のそ上系サクラマス採卵記録情報を用いた。

2. 釣獲数調査

そ上初期の状況を確認するために最上川水系および赤川水系におけるサクラマス遊漁解禁当初（2024年3月）に、現地で遊漁者に対して聞き取りを行い、釣獲数の把握を試みた。聞き取りの実施にあたっては最上川第八漁業協同組合および赤川漁業協同組合に調査を委託した。

【結果及び考察】

1. 採捕数調査

2023年は6河川から合計25尾の報告があった（表1）。内訳は雌20尾雄5尾であった。

2. 釣獲数調査

赤川河口域では2尾の釣獲が確認された。2023年の同時期の釣獲数は15尾であったことから、2024年は昨年と比較し低調であったことがうかがわれる。また、遊漁者から脂鰭標識魚1尾の報告が寄せられた。県内ではスモルト放流魚の一部に脂鰭標識が施されている為、報告があった標識魚はスモルト放流魚由来の個体の可能性が考えられる。一方、最上川河口域では3尾の釣獲が確認された。昨年の1尾より多い報告となった。

【参考文献】

真山 紘（1993）サクラマスのスモルト放流に関する生態学的検討 - 河川の自然環境とサクラマス資源 - 北海道さけ・ますふ化場技術情報誌「魚と卵」 水産庁北海道さけ・ますふ化場編 12。

表1 サケウライ・アユヤナにおけるサクラマス採捕数の推移（雌雄混合、単位：尾）

水系	河川名	採捕年																	
		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
最上川	最上川								4										
	立谷沢川	2		3															
	鮭川	1		4			4	1					1	1					
	小国川	2	3	3	4	2	3		15	1	3	22	7	15	11	10	16	7	
	丹生川	3		1		1					1		1	3	1	3	1	4	
	富並川	4	8	2	1	4	3		1		3		1	3	1	7	2	8	
	寒河江川		2				3	1	2				4	5		4	1		
	小計	12	13	13	5	7	13	2	22	1	7	22	13	27	14	24	19	20	
赤川	赤川	9	12	6	10	15	4	2											
	早田川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1※	—	
	田沢川	—																3※	
月光川	高瀬川									1								1	
日向川	日向川											1	4			1			
	合計	21	25	19	15	22	17	4	22	1	8	22	14	31	14	24	20	25	

※サクラマス用ウライによるもの